

門 九 4
號 3823
卷 2



し
う
れ
乃
一
さ
せ
下

町
ふ
池

う
さ
ら
比



橋

鳥
越
橋

篠
橋

渡
橋

三
枚
橋

明
け
い
け

新
し
け
の
橋

た
び
橋

西
國
橋

日
本
橋

渡

三
文
渡

竹
町
渡

渡
橋

三
文
渡

船

東
國
丸

山
一
丸

徳
一
丸

早稲田大学 圖書印
昭和 26.2.9
藤 宗

天
山
大
和
屋
貞
書
林
齋

新田一九
或曰く次

川武丸

竈居丸

野

武野

日向野

中野

武野

しき井野

妻恋の野

小路

藪小路

杉原小路

廣小路

式部小路

塚

道灌塚

景政塚

葉年塚

大塚

藤塚

龜塚

物有塚

秋女塚

家志塚

梶原塚

花人塚

澄塚

馬場

枹方町

高田

中野

浅草

新田倉所門之内

小日向染地

小石川染地

市谷見付所門之内

赤坂染地

芝

花

东叡山

谷中感慈寺

浅草観音堂

日谷自性院

志波大佛

深谷

柏木

岩中法忠寺

新

戸塚昆沙門堂

月

三股

本捲町

橋

鳥越橋 浅草見付の沖門と天王町の橋と云今野天正の
さき新鳥越橋といふおまゝのりて元鳥越橋といふは
鳥越橋一浅草川の堀入浅草三拾三回堂の南に堀入
やその堀の成りて浅草川より船と入るなり

穀の橋 赤根の禁となり川今比の國寺中野の町に親孝の
むしけ橋の下一穀の奥のりて今比の國寺の南に

渡橋 切り二宿の中野のりて今比の國寺の南に
きまて下りて橋と云むしけ親孝の
茶師の棟札に新日長者昌連書つるはりて千五百
五合千五百新十六百費新日さす夕日めやる板の下の
ろと云は是と埋め下人は負せし橋を流して埋め
下人埋め下人と云りてはりて今比の國寺の南に

は下人のりて今比の國寺の南に
大猷院様沙彌およし沖の付け橋を渡橋と云
上意より渡橋といふ
三枚橋 下谷を通り青町のりて今比の國寺の南に
け橋と云り右の方より町へ入るは橋又と橋の下に
一町あり橋といふ三つの橋はむしけ板一枚つて今比の國寺の
町に三枚橋といふといふ又中野のりて今比の國寺の南に
枚橋といふと云

二枚の橋 喜山のりて今比の國寺の南に
左一町のりて今比の國寺の南に
乃百のりて今比の國寺の南に
後悔

いふ遺傳のつよ日本橋をわけてさるはゆひなり世は
まけふつるんをさるうらうらとさるまはりまどあつと
りかを世のうらわらうらとさるんといふ事ゆはわら
る一者高梅各に皆あらうこうすこう後うらうらさる
舞うたらしん岩のあき本を葉のあをけてたのうら
なとといふをそのさしいささといひてんはまのめん
あつたればさるのあなみねあつととて後うらうらさる
一さにいひてんはまのうらうらとさるんといふ事ゆ
世なるうらうらとさるんといふ事ゆ世中のうらうらと
さるんといふ事ゆさるのうらうらとさるんといふ事
連懐のうらうらとさるんといふ事ゆ富貴威名と福と
さるんといふ事ゆ起まり煩悩はさるんといふ事ゆ
いとさるんといふ事ゆとさるんといふ事ゆ遺傳のうら

道一 我身九年の竹のまけはさるんといふ事ゆ

不求橋

丸山本明寺名を陶亦と遺傳は深井の花や足物か
るうに丸山つらうてみるふつれうら橋を海一不求橋といふ
札とさるうらうらとさるんといふ事ゆ竹の折戸の門とさる
て橋の本板のうらうらとさるんといふ事ゆ

藤原の世にわらうらとさるんといふ事ゆ

とわり是はうらうらとさるんといふ事ゆ
さるうらうらとさるんといふ事ゆ
のうらうらとさるんといふ事ゆ
なりけり源光景といふ人のうらうらと

源光景のうらうらとさるんといふ事ゆ

よらうらとさるんといふ事ゆ

祇園の山もさるんといふ事ゆ

と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
たのしき事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
川にさかひありしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
供の云りしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
ともありしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
志てもその業にあら人のくまらしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
海と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
いと又云六韜の六者に二冊云それ身術とすは海ありて
衣服とありしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
以て利とりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
はあまやしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
我勝り常にしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
利をとりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事

とのとあやまらしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
といふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
らに利をとりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
を以て利とりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
の一事を以て利とりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
小異と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
世を以て利とりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
海と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
何よと云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事
と云ふ事なりしに不承橋と名付けしと云陶家といふ事

有りとも利欲とくれきてのうはらるるをさしにのこさし事と
にりあつてつるされ右れ傷人みゆるるもの心知はたふにたがひ
らるるものふと作事としつゝ陶しるるにねととの成睦はふれ
武士たり各料とてさるるにこいなる武士のうらぬはあつた
とるしやあつたのうらふ事也各利とて云はれりるるら
ふゆふのめはあつて今限通るもとさるる一折のま
けれり程らふに黄花^{きんばな}のすつてあつても力に盡しては
千金百貫あつてわらふにそれといやうもさるるといふ
たりあつた事成つて小利とてさるるをさるるは
大利と見定るる事あつて一人の海也たのしむる事と
せんといふにさるる入る道付ふたつと門のあつた
わけに因つてさるるをさるる又下を捨て敢奥地^{おくち}
の事と慥^{たしか}わらふといふより慥^{たしか}にさるるにさるるにさるるのつ

のうら海いさる満庭^{まんてい}荒草^{あらいぐさ}を剪りてハ新^{あたら}の志のまき葉と海
つらにきりらるるめらるの場はまのあつた事むらりてさるるに
あつたたのうらさるる店^{みせ}のうらにははさるるを大ささるる
中^{なか}にあらうにゆらめてさるるにさるるの事さるる丸くさる
らさるるしめりゆは程冊と入るさるるさるるさるるさるるわけて
さるるにあつたこの程冊^{しよせふ}のさるるの物とさるるに書さるるにさるる
けさるるさるるさるるゆらなり

有睦 梨本浪家

人志^{ひとし}あつたさるるさるるのうらさるるさるる浪家として
月紙^{つきし}さるるさるるのうらさるる

・ 成方 坂本

約きてわささるるさるるのうらさるる浪家として

木質 新花

基治 大以

玄の葉の花をとりし初らん人志さく病乃かくまひ山

木秀 林

乃くまきそ竹つひしは陰まひり力の隠ぬまひり

半用 三三

共ぬいよむとやん老の身さす下まれと下る隠家

木旨 烟枝

初まらん人よあつは力あはれとせん隠ぬまひり

重廣 有馬

山書き里法流はもあつりし世をたれしむ隠家

義豊 山名

まらん人よあつ外の隠家いふはりふまきこもあつ

定賢 田中

輝りなるん山と隠家とまのあつりしと下る

宗川 清水

業すし人もあつりしとあつりしと隠家と

正範 菅原

おつりし人あつりしと隠家とあつりしと隠家と

頼永 意斎

山かゝあつりしと隠家とあつりしと隠家と

徳哉

あつりし人あつりしと隠家とあつりしと隠家と

源 次女娘

あつりし人あつりしと隠家とあつりしと隠家と

陶子も遠候も自向のたふ一首つゝもそ書付

・陶の舟

うこうぶんと山とぼやして舟は遠家、常といわや

遺佚

心はことか方の遠家もいひまきあふよきまきまきは

き候つけあし書付て陶もいけあさうきしれあやとい陶子も

つあやとさ字はあといふ字は下にくと書ん自丹下にあつらひ

といふ遠候の云思の一字法慶津伏といふ事も新名せんげん

てゆたんだの折沖うに鳥の泉とらゝ事もさう

いききにすゝいふのあやうのあやうあきまはし

あひやあひなしくはあひあひ事のよひりそするあつらひ

けりいあひあひまはしとあひとあひりりあひらとあ

渡

橋場の渡

角田川の渡ーこも云い戸禪宗三々寺松泉寺こい

寺法茅ヶ原かみ比之れは取也むー新田義宗むー野

合戦乃時足利あうらまは石橋めて引まらると太平記よ

きりけ取なりと云陶と舟と遺佚と新名とこもて今

戸と橋場の渡ーあやうぬと柳陰一むー此里の

きー此源の後頼乃是とみー渡ゆりー六回渡はさすさ

でのこーとあやういひー橋場のうれ事之けりあ人のら

あやとあやうらに神乃志とにぬきーあけーとの春雨あり

春潮常雨候春急ると野渡を人自横入るこももみは

候ーあやう孤舟の移んこももみー麻痺飛くと松を

こめて湯田川のかさうこももみーあは法草寺のあひさ

ーとつゝ上野の八つとあは田遠候もむ

春雨の雲小を巻ひけりよの目成むつことよそくは

竹町の渡 五浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡 三浦の渡

日影の日影乃をやまあなりうるひきいんよか

とこよふぢれにけき初も合点ゆぬ事よといは遠候の海

天

かまきり まげろといふ事 百をぬらこにうくのうらや

うらて行くんとあり

たふれた 下乃帯ぬりけりこりこりさきにすはあき

いーのうーぬふとあり

ほつてぬ 移り事 けりけり 一ぬにけりきあふらん

ことかきかきともこのあき

ふんて かきかき けりけり けりけり けりけり

そ海の浪れきあふさきけりけりけりけり

はらり かきかき 信長一は今ほまきらん

花のうれ母もけりけりけりけりけり

そとまめ 拾遺集より
いふりて一りありていほるも志ほるるそとまめといひ
とらり物ありあては打紀し遠候り日格と

東國丸 船

浅草橋の船あり大船なりとてや

山市丸

日本橋の舟なり 東國丸より遠道より東國丸より

徳一丸

江戸橋の舟なり やとと丸同小志さうしゆ

一徳一丸とて

神回一丸

是ら神回あり一番の大船也一と名られ月の舟と

昌公主の朝よ浣水帛とわたりともその志とておぼつ

あせむとたりし氣はあけ目らし一花宗にあつた一樓

とほらんちもあせむはせ先て志はこもりやけ船をかりて

柳原といひし海原川にたせられ風飄くとして夜とあさ

亦拙きこしやわらわしきおとせ川やの舟りてまつせ川あり

川ちりきさよせし川急流くよら浪のよらとも

あつた月の影こよみいんかこもるは徳一丸とよみあは
の影のまんゆくとけらりてあつたのうか蘭乃らこもいあ
くかさうあひいりてあつた幕とよみくまうらとよ
ふん乃らしん年しんのよりの二八とらり九廿十二三人おち
すに下まは白きうすの言ひとて成と志し上いを地
會むむとさき粉とらん角らん格校とと流黄とこさ
白かこよみさうりし田子れ浦まの友りちや松行ゆり
垣のりし粉ふ志揚色りし色ひとて常茶行りひのり
志きそと由せまやう伊路やうりさ松やとてぬい人乃い
のかおとさこもさすそのい遊まの風よを洲掉さや垣所
川一丸とらりわうりし橋お下うり志松ゆりし大のり
しき風乃り一丸よきいりし虎一丸西國丸西國丸小國丸
ふ丸ゆりかひ沙徳呂れゆり一丸一浦くひまてぬり

行しゆの穀亦十石丸穀亦十石丸二町立も月くをり清美川のか
すに観音丸とよきこにてふれ名れきつ小はさそ漕まつらの
山一丸まらりしりや都丸ふニ若ぬしめ右史亮右史亮り各名丸
芳那丸に吉田丸すこ一丸に梅丸ゆりしをいりし松と
いよ病のち松丸じゆいりしや丸丸に去いりし丸丸
は者丸乃相と未代丸といのり伊路丸百丸もまら
辨辨た云れおしは合は合りし丸丸とち福丸とち丸丸
目らとよく波者丸にうらまてさかの言に神らぬを
さ次とまらぬ丸なんとらりし遺徳りし
ゆ形乃かひ人とみりし丸丸ぬ丸と神丸らん
い舟はりし丸丸と書けりし丸丸也角國丸り流合龍丸
まゆと書たかこのり屋敷所やりの茶屋屋鋪にりし丸
ち丸舟も水のりりし丸丸とてに漕らるは友國橋の

ついでに朝夕の二つありては、
と申すは、ほら、それ、
きくを、
と記す。 田舎の道分たの町、
うらうらと、
あはれ、
との、
まは、
わさ、
い、
と成す。

に、
海軍の、
事と、
あり、
き、
それ、
や、
あれ、
に、
ひん、
き、
りの、
この

よのりゆ 唯身其妻世と執り心の若とわし 樂と云はば
その神のゆめは世にわし かな書籍を僻人て古人の
糟糠と念ひ輕惠にかたりて誠とや ちいよとてしとを
とてけき用はるやといふらんや 家やひかりとて福
たてしはれと補ふとて杖とけけと陶とみとたてくこ
前亦とて道徳とてらんや 因果とやこれとてらんや
陶とみわがらんは徳とたてけ中ならんは徳とみわ
の石神村一ゆえそ名るはた田、あまらんらんらんらん
ふけとの心

むき井師 一記せらん 築塚一も言井戸とてけりてゆ
け前よとて此のゆめも也 祈の者れいも 懸此れを田よは
つとていふよのゆめを風味よりよとわらん 13年此らん
たりよの師とていふらんや 1年とてやとてつらん

能くゆめよのけい前とむらん 此系にや 廣たかな地らん
毎年く此とゆめを切實に新田とてゆめゆらん
こかり 所中よりゆめ風味に揚まりといふ 今ゆめ
とらき菊れらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん
とらきとむまのゆめいむし井師とてゆめらんらんらんらん

書意師 玉師の南て沖の下判所をのりゆめらんらんらんらん
本下で一日たまたまにぐらど是ハ今此世の行事ゆめ
なりゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
神とてゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
のこゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
活帯のきりゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
病と何とてゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

小路

教小路

外橋田から細川丹後より寺屋敷の間にありけり
ころの田作やふるをむう一由秘蔵とわすれぬ事
てい教の田を死する事多し今より竹とさう
松原小路 竹橋の沖門の田元は色本立とて松原とてその本立

とてく結城の中細く新町の山屋敷とならされ以て本立の山屋敷
としり 松原小路のうら今中根大湯の山屋敷に
権現様赤信をわすけしころ黒山とて山屋敷とていし山屋敷今

培上寺にも松原小路の小今山屋敷の山屋敷は後河大細を志長つのも
やさしき小の丸としり本也

廣小路

上柳への赤成道下谷の業所長門にあり今ハ
廣小路といふ有る西の業所長門とて山屋敷とて成る事と云

式部小路

日下橋南式部町の橋町

道灌塚

西ノ産にも塚の部ハ有る記

景政塚

赤川東海寺の物寮のうらに道倉指九郎多岐の
塚といふ有る澤田初尚の所取山屋敷春雨とてしり

業平塚

牛嶋のうらに業平の塚とてしり
ゆき星にありけりなやとてしり
その山谷の山屋敷を海までつりし塚も亦ありしは
有り山屋敷ありて風わくなくありてありけり
依人山屋敷ありて業平の塚といふ有る塚とてしり
水も山屋敷ありてしりしりしりしりしりしりしり
くもしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
死骸とてしりしりしりしりしりしりしりしりしり

此の事よき事と云れ然と分るけしけ地とあり平塚と
いひ所似も業平村と云今小梅村といふ所の橋と業平橋と
云をたういひむつ一の橋ゆひり人の云ふ事とせむたう
業平の少将と云くは云神といふ事なり別業平と神と云
又人の云業平の事云又中村の事にはわし上徳の國は
あり平といふ所家の侍も或家の由せめと皆大なる事
ついでと軍村と云くはいふ事とて討死せし事と云ふ
はきこめし事と業平塚といふ事と云くは又新記の説と
いふ説お遠也いひきもてし事と云くは
大塚 小石川のいりすかものたけとにいり大なる地塚と
塚の上よ不動堂と云
藤塚 法華沙門の橋と云り右の方かや所のうらに云く塚
太田神の社も首は取つたうり一つの石もきりそのいりに

藤塚大明神と書けり本所の寺寺買ひにりいといふ事
今此地よりいりなりなるに藤塚太田神といふ事と云く
ありし事と云くは藤塚太田神といふ事
亀塚 三田のう二の橋は近所と云又昔中石塚といふ事と云く
ありし事と云くは藤塚太田神といふ事
梅若塚 角田川本母寺にも角田川の事梅若の友人あり
今わやまうゝ岳井塚岳塚といふ事也
花若一ひうきくむしむしと云くは柳若といふ事
班女塚 志入すれ池の事と云くは柳若式部太輔の下屋敷といふ事

ま〜とを扱す衣の松といひ〜近きはまてはあり
つ〜とき〜とせいすめては〜は松を〜
少〜も同不敵の樹の松三用不敵は松梅を〜
ら〜きぬを松の産地の松一本松やら松を
町〜八町は〜松系越〜〜〜や海松
今保科松系〜三回の産地〜一年は古事の新松
家志塚 金子十郎家志塚松系松系松系松系
中〜き〜松平越後松長つ〜中〜き〜
ら〜〜〜〜〜

梶原塚 一〜海といふ近系に行くと云む〜
あ〜又板橋の松系池つ〜と云ふ松系松系松系
あ〜是は上松系松系松系松系松系松系
梶原松系松系松系松系松系松系松系松系

松系松系松系松系松系松系松系松系松系
松系松系松系松系松系松系松系松系松系
松系松系松系松系松系松系松系松系松系
松系松系松系松系松系松系松系松系松系

松系松系松系松系松系松系松系松系松系
松系松系松系松系松系松系松系松系松系
松系松系松系松系松系松系松系松系松系
松系松系松系松系松系松系松系松系松系

馬場

博芳町

け町の冬を言ふ事流石富田とせしむるに沖公後の
博芳なり所より小のくたる馬を文字は馬口筋とかくと
しゆり今更のうと筋をけしゆくす事ハ先國
の由何常陸のうらよとてしゆりす事ハ先國
くくらのふも二歳幼より御多能馬はけくあつて馬
ととら一と也能馬とてしゆりす事ハ先國
をれとてゆくと入とてしゆりす事ハ先國
時野一と也一筋とてゆくとす事ハ先國
法とてゆくとす事ハ先國
もくも氣のくくたるもす事ハ先國
たをゆくとす事ハ先國
ゆくとす事ハ先國

切はさるしゆくともゆくとす事ハ先國

きこもくたるしゆくともゆくとす事ハ先國

言回 け馬場ハ公命を忠告の滝也長は町余の遊
ゆとて馬場ハ公命を忠告の滝也長は町余の遊
書流書流十但大の番流十二但目と定一但書流の
前もて自分の馬とゆくとす事ハ先國
んんとてゆくとす事ハ先國
ん中扱流の場に多を定て番流の流とす事ハ先國
とてゆくとす事ハ先國
か一遊也とてゆくとす事ハ先國
きももくたるしゆくともゆくとす事ハ先國
ゆくとす事ハ先國
をふゆくとす事ハ先國

けさのあまの心の修りなりたる地帯に死なばとて
色は行つてお供せぬに馬に敬とあはれとてたふ
しんはたのふりてあまのこころ

光前 和歌寺の山

浅草 観音の水のうらやま

和国 和国沖門のちのちのち

小日向 和国沖門の下

小石川 和国沖門のち

市谷 和国沖門のち

赤坂 和国沖門のち

芝

東叡山 花

黒門の二王門の並木に花は流は

東照宮の清文のまじりて花は流は

幕はらうてあまのこころ

ありてはなはたのちのち

女房のうらやまのちのち

してさくらに花は流は

花は流は酒のちのち

小の上利に花は流は

とけは流はなはたのち

女房の小袖に花は流は

とてさくらに花は流は

あまのこころに花は流は

きこふらとあつたれも差ともうしはすれ少神とすき
とめしつて所々紅梅のよもまらこゆしにまするなり
花のさうりはげんとらりぬの石橋しつ中くう紙一ゆ
きする細くゆす下まらまのとも節遠橋初め交けしを
海くく廣小路へかりてく湯橋小石川小日向酒の
池のともまらしつらてくる小玉門前く下谷かづのん
物人言中梅らうの人言もくわのりちれをいし
はかりてくまらまらまらまらまらまらまらまらまら
扇風坂しつものりまらまらまらの人こくわいひいし志きこ
ちらとくれとも沙法夜とちりけんまら花はうんま
常しつ仁王門へのゆり乃すら西のまら白いすれ
たらさくくを遣供しつ

咲ふり梅とにゆあまら言とあいまらく風とまら

陶、赤も待とゆり

東一敵山一頭、紅白櫻 遊人酔賞去、還行
霞一幃雲一幕圍、花地 飽領春風歌、舞聲
わあしつあしつとんらゆ遣供しつへりたらくは陶も赤
市もあつたれたふしつれまらまらまらまらまらまら
らしつ海のらか糸梅の花ゆあつと下にま風呂とたつ其
中一花とく温泉まらあつとをわあつたまらつ
きしつてわつとすりてあつらまらまらまらまらまら
ひらめといつを遣供あんどにちとまら
水風呂わらわらりあつたれまらまらまらまらまら
陶も子つれら前の絶白れあまらまらまらまら
霞一幃雲一幕圍、花地 虚入水風呂出頭
こしつてまらわつたれまらまらまらまらまらまら

わづらもそ詠のこゝん花を力もよの回の風うわいふれや
清水のわづら切たふ小杉原よりうねのわづら石塔を遠侍の
らぬわづらとけりいせんこのやその筆とごう出して
そ原の書はけり

乃うたらんうしと并せふうし今迄まふまぬの筆
それ元三右衛門最勝院にたしませはんけいのこも道
もよりわぬまそぬまれいさうく清うの筆巻にや
らしむる花をそく清春をすあさかたうとて成りい
ゆてふらういさうふさよけらうあしき人うかひきた
あうしこに目とらそりくをあらていさう遠侍とんつあ
家より花をたれしそむさうくしとていさう引たしゆ
是をいさうあしとくし神のめいたらんじ目つらんよたんふ
院一より花をたれしそらにそらあうとんつあしゆ

ゆへは書てまうりさうまそしゆゆそいさうまよせ
つきてゆ縁のまにかはけり花より平れ席うゆ急須の
海分懐中よりゆてあつとゆしそ一紙の書あつたあもれ
形と書て揮ひゆてゆしゆゆ遠侍書まれ清うの筆
ゆり

谷中感應寺 今更とれゆみの清い花より花の夕暮

う場へゆるのちよりて白いゆゆれらる花わりさうれ梅の
こりらるゆらゆらいさう余ゆまてゆらんしゆゆ
根の風屋の筆よりゆり

清茶観音堂 今更とれゆみの清い花より花の夕暮
いさうゆたれハ橋乃元任うさきゆらゆらゆらゆら
と清しゆゆもたゆきとゆらゆらゆらゆらゆらゆら

日谷自性院 梳町日谷村赤坂の山に花をうらな幕と

うらな幕とやうなり幸いおらんを揚のうらな幕のうらな

芝大佛

隣のやまきとをうらなにこれおのうらな幕をうらな
なしてはらうに花なきゆつ小菟ん危き門へ入る
右のわづに観音堂とそれ賑わう山へのりて五津の
社まは松より芝のゆきをうらな幕と大佛のまきに
えいしうきをうらな幕とをうらな幕と

深谷

まづこの合まぬ樹しり合ま樹とてしり
は樹のまを記伝大御頼定つのお母高珠後方お母ま
あせり智ゆつまはらうらな幕と合ま樹とてしり
かまうらな幕と合ま樹とてしり合ま樹とてしり
是入とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり

今合ま樹を名きたぬ幸に初巻に実樹の樹も余人の
樹とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
はもろろとてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
んくおとてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
卯月廿八日おまの合ま樹とてしり合ま樹とてしり
えゆらに若まのうらな幕とてしり合ま樹とてしり
は樹をうらな幕とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり

おま果て

名は合ま樹とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
の合ま樹とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
れ城と妻をうらな幕とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり
名を感し合ま樹とてしり合ま樹とてしり合ま樹とてしり

のら男山より正八幡と通名鶴岡へ御造りしは其基家也
け取一男山正八幡と勧誘し忍名八幡は其後創也
此時日天の御説と曰祖父の明見大菩薩へ在り九月
天の御説と曰八幡宮へ在りなれり
傳記
たきし今御説はう一金王橋八頼朝の御氏御説は
地元の橋と云ふれり
ち佐房正後八幡基家の
子孫と云ふを伐り地とて忍名と名付たり
け八幡宮の寺にち佐房正後八幡具足と云ふ一筆
と持け八幡より三田町御説甘藷水といふ名付り
經基親王に奉り
又七八町御説神代水
といふを是にむ
空新伝人法道仙人の具茶と稱
し
し
きん法橋と齋といふり

柏木 け村と柏木といふ寺のち御説は

まは白いあり
柏木村の名ありゆりや右邊橋と名付り
花のさうりちよの花より金經寺といふに似
て花を行きよの事に橋はまより竹の垣をかきよの
御説はさけけを造供りし

か一本のありて垣をよも青紙の御説は
少いし史記の晋文公の妻に築り古事といふに
し

谷中法忠寺 法忠ト橋といふ平川は法忠寺の
御説は
御説は
台徳院様へ一板敷といふは上鏡ありしを
きりし
わをいふれり所に行と平川をいふり

細くは法忠孝極と名付ゆりつき〜と意より法忠孝
さく〜こいよ平川よりと昔中まて移〜植て花のちこむ
か〜にか〜さうけつ右来ゆつ植て今をゆ〜との
さく〜れ枝とさうまにあらるま今も来めく今寐思
坊のなま〜

戸塚昆河門山

言田の宮八幡の東に有是古備後国新御代

かけ念〜もり目と〜し〜さ〜れ〜は〜新御代甲つ〜さ〜家門宮
軒にあ〜さ〜流い〜い〜わ〜ら〜と〜つ〜〜作り〜これ
き〜ら〜ぬ〜さ〜さ〜う〜け〜取〜来〜行〜く〜枝〜ま〜け〜を〜流〜き〜山
た〜ら〜ふ〜ん〜と〜ら〜せ〜は〜田〜島〜い〜海〜〜い〜川〜の〜な〜れ〜と〜て
牛〜込〜い〜ぬ〜ま〜け〜い〜が〜甲〜に〜あ〜く〜家〜居〜と〜く〜か〜さ〜う〜さ〜き〜地
ら〜ぬ〜ゆ〜う〜し〜ら〜さ〜う〜と〜この〜ら〜め〜を〜都〜を〜の〜さ〜や〜な〜ら〜と
い〜ふ〜事〜あ〜れ〜い〜ら〜〜も〜う〜ゆ〜〜神〜音〜さ〜う〜い〜ま〜う〜り〜な〜ら〜に
と〜そ〜ま〜の〜事〜に〜ほ〜む〜の〜あ〜そ〜ん〜と〜は〜き〜れ〜〜さ〜ら〜人〜何
う〜し〜さ〜さ〜〜し〜〜ま〜さ〜ら〜さ〜は〜つ〜堂〜れ〜縁〜は〜な〜む〜〜ら
あ〜せ〜さ〜〜と〜ら〜り〜い〜ら〜け〜わ〜さ〜い〜ら〜〜と〜の〜の〜ゆ〜〜一〜勢

月

三股 友國橋とくはき橋の首と向い流の首と三首に水あかきり
まゝら申ふくを三股と名をさうけり先ハ夏むきののせ船
多ふかいてさうさう月の夕ハ清光のら波なり仕事さう
うい酒を討しうい月を家して嘯し不こそ以半井
ト春のお舟に

うはくき人も二ハの十六夜月もさうまのつらさのてい
こよりしもト春八月十六夜水あかきりけり三股とせうけり
堺所の流瀬ぬきもさうけりのをせ研うおてほのむ研う
子に年ハリつらさうさう十六とつらさういも十六夜行
かーかーお舟つ首まうせんとして舞や一季をけりや
秋の水を流さうきさひく船のさうことすまに夜ハまは
さゆりて月のゆくことお舟と乗あははるさうけりちる

い前かろし月澄て大いおちりくとお舟つらさうい
立志や陶も舟りさうけりお舟り人の舟に
かーかーつらさうきさう月もさうまへん様と定にさう
造供と船とまへん

夕志のさうお舟流さうけりて秋さうまへん月をさうき
陶も舟も詩はゆり

風来水面満三 月到天心掛一輪

此地誰論清意味 舟中醉着流人

本枕町 風あけをたしれささのさうけりとい合つて舟人本枕
町なりさうお舟り人の舟にゆさあ毒戸とさけりお舟り
まへららよもさうけりや志のいさうお舟りお舟りの流さ
さうけりさうお舟り入さうけりいさうお舟りさうけり
ふんや花はけにさうけりさうけりさうけりさうけり月の

いとしらにありてしつこにゆつてゆえんを
あつたなりたらふまゝのきみとて奉ら遣供と
らいらいせむとこれと門口のわたりなりとて
もくしつとあまりて名のまいほりゆとてあは
とく海曇寺れい系ハ去年よりいさくれの
ちのらけりといほふはあつたすいさくは
なりてしつとていほふはあつたすいさくは
まもまんほりもわれを深わつた系とあつた
浪路らとてしつとていほふはあつたすいさくは
遣供入道もくしつとていほふはあつたすいさくは

真間

と越ゆる是ハ利根川のすもとや石がむじもいさく系
らうといつてもなほはかりとて神や村ん系も
きれはさつらあゝ真間といつらぬけ橋のまこ
け塩のうー門ありとて志留山のひんくの塩
をまじりてつら橋ハ二回ありけり也それと海大門
の下ふあもあつたといつらぬけ橋のまこ
いさくといつても遣供といふ

それより石壇とありて堂の系れい系たれい系
りからんてい系れい系たれい系たれい系
たれい系たれい系たれい系たれい系たれい系
遣供といつてもいさく

大の寺の系れい系たれい系たれい系たれい系

正範亦もむいけり

色にまじりけり小蛇一けり之を繋たりし庭の紅葉に
重次右の絵冊とてくさくさくハ初めりて跡ハ

そとにわたり小竹と蓮花やめり之を繋たりし庭の紅葉に
けり漁守は小児女の四神たりけり幸ハ紅葉集よりくさくさ
古同の入りしもくさくさ後子載集より馬者りのくさくさ

曇りし日の影もかきし首見しもの入りの好の夜月
毎井のありたりたるいさききくさくさハ幸らうせれとてくさくさ

雪ハ

王子金輪寺

約也

岩園

自家

一推

現の

宮さ

地をよむまじりて又指余所人家すくみ人まれあり寺あり
はあききあめて清きあなれ古本生角りて竹藪うく
世とのうれあつふ小すまじんふんふふりつきあ也花の時ハ
あつらんもあきとあきよハあつらんもあきとあきとあきと
茶あつらんもあきとあきよハあつらんもあきとあきとあきと
言のほろけりわあしあつらんもあきとあきとあきとあきと
て酒のし雪西日とわくわくわくわくわくわくわくわくわく
とわいてすこときききききききききききききききききき
あつらんもあきとあきよハあつらんもあきとあきとあきと
や初もあつらんもあきとあきよハあつらんもあきとあきと
あつらんもあきとあきよハあつらんもあきとあきとあきと

別し小舟も官紙のせ挿し一ひのそ作中へ海りよハ
わし神も神ららそらよかけも所し志ひきこも
けりつ海わされよせいしとん田唐老子猷もかふ
取もや丁もせん載安通ルル少也とせんと具ははきほ
しとのとそ遠供りよし

名とつけんそ金とある寺の初詣の言と年やはらん
まことこにきしり翁のよし

たゞ世ふたゞ記念とある人も終よさこめとすも

糸禮ハ

山王

六月十五日なりい前ハ毎年行るもいし中
より隔年しき六下れ山生舞あれハ公儀りの糸ゆい
中よりあり永回ら場より松町の沖門へ入杉原路
竹橋の沖門より家と沖金とて上御あり糸病
らいら山王より也供り所よりハ凍鼓若原より
ろろいしよ詩の心はけり物定て切松町十一町ハ十一の
笠洋より笠洋のよる令の鳥帽子と黒巾帯と折る
襦とけくまといとら襦とのゆる也かきけり
年にくりあもろ所より大らわら所より大太刀
らりわらるるあらい衣体とけりて車よのせ牛い
式ハ派の多貴箱と車よはんで氣れ油より
いう名又ハ塩波れてつとまるり塩けと金取

だうて立波と橋よりきこれはせやうくわげの岩
招と波のともとつて言解の浪の風あきそや神と
めまらつて又ハ花ととりこらにまら咲きし梅花
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ
かきわく白ふくくく言にうさくく花とれ

浅草観音寺内三社権現の祭 三月十八日也是も陽春に仍ハ
あけ三社権現の祭ハ花園の沖宮正和元年神院
依て神なり観音堂の一の門を神門といふ風の三宮と
なる神をまされり内ハ御堂の末寺ハ花屋もき一増と
いふあり二の門ハ二王門仁王門也御堂の社あり
浅草の者ハ浅草津也御堂の奥ハ舟敷天れ宮あり大永
二年九月十八日ハ辨才天の堂ハ色より浅の浦也事
面永三宮堂といふ小田原小原家の侍とあり古記小
あり東の方に大佛と御堂一とありとあり古記小
仁王門の内ハ左の方に神馬あり右ハ又重ハ塔尖佛堂の
本堂ハ南向なり大化元年に橋海上人けり列ありて浅
草村の名もせり浅草寺と名を又白雲深處金龍窟といふ
ありとあり今浅草と号はけり浅草の少屋場と今浅草の

去んどの如し

市谷八幡

八月十五日(隔年の祭)と云ふゆへ甲酉戌庚壬此

うにいまは祭礼は大方に氣を遣はし流し也祭にこの時流し

あつたといふも祭小出の男をさへ流し居にしも云つて

山崎のやういふこと人のまゝの男をさへ流し居に流し居に

りて居たりといふ所はさへ流し居に流し居に

少着の申づつて居ればさへ流し居に

祭礼の如きもさへ流し居に

江戸風の根をたて居たりといふ人もさへ流し居に

さへ流し居にといふ人もさへ流し居に

それとさういふ丁や本撰丁といふ人もさへ流し居に

らさへ流し居てもさへ流し居に

さいか片々事なるもさへ流し居に

ともさへ流し居てもさへ流し居に

かゝるのいふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

たゞしといふ事ありといふ人もさへ流し居に

氷川大明神

右坂一ツ本村

六月十五日祭也是日宿年の事

柞氷川大明神と申す古て下早懸しと云けり

い神は雨と新小急甚多あり下川へ又穀万倍れさう

とゆへり日本神祇集に云く

童名明王孝法天王天平宝治四年誕生と云く是則其

立神大宮氷川大明神又因由氷川大明神を是に云業

平の齋と云業平むさしのあまのりてこれ娘をぬき

に返さうと云と遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り遊り

宿年の事

下早懸

穀万倍

日本神祇集

童名明王

孝法天王

天平宝治

四年誕生

是則其

立神大宮

氷川大明

神又因由

氷川大明

神を是に

云業平の

齋と云

業平むさ

しのあま

のりてこ

れ娘をぬ

きと云と

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

遊り遊り

宮地を縁起もかゝり谷下人のあそびやうと云ふ

齋神とす

越明神 去月十一日也海軍足付津門の外むらむら

つくと多神といひしと也多越の神なりし一身越の神

ともいふ

時乃鐘

石町 石町目の中福小くはる鐘の事 粘名より鐘

はらら宮中にて、氣をくくりにねしは故よ声に
ほきなりといひ 木火土金水のみありしら金
乃と声も玉海樂是といひくわいしつらかといと木
いしこ竹このはつれ物よ声といひとも金を以て長
とす 漆て磬鐘等のうらま物とありしら漆を以て木とす
ふと云鐘ハ陰聲小して物と云はしひらよの也故に鐵端に
て木鼓と云ひて軍兵下しめ鐘を以て人鼓と云ひぬ
又漏刻の事 漏刻と云ハ夏の代れわのなりと一丈あり
今の代れわの小けのりてを八尺なりと云ハ十二時と云
しとわく一丈の筈と云ハしきと云はきと水のとにかき
浮沈のわのと云ひて時と云ひし一丈と云はきとわく割

ら夜寝入陶く亦ハ獨りしうまの如く人ゆうとて
ふいそ獨りしうまをさすこすこせせにらき物候とする
造候ハ子孫ありて有るはよく祈るる。例の老い祈る
して祈る。れぬまうに一首よむ

うしといひ老い夜寝の去るきや物まきたぬたの
やうくあて西海寺の女の声もあけぬとなりはく
陶く亦起て造候にに祈りしうま祈るる。同され
何事ととりしうまの事やあしうまの事とさあ
うまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ
ぬかすうまの事

今冬又身にも書き流風候にし香祈るる。しに
去るうまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ
わい。亥のうまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ
流とて流るる。しうまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ
このうまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ
大仕事に焼ていふ。そのうまの事や祈りしうまの事とさあ
いの他。はら十二支の流をいふ。そのうまの事や祈りしうまの事とさあ
うまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ
志このうまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ

- | | |
|----------|----------|
| 鼠山・流光人未驚 | 牛玉出・世振梵志 |
| 虎狼野干氣縱橫 | 兔角方便誘群情 |
| 龍宮高處聲華竊 | 蛇室瞳破覺心生 |
| 馬腹忽變聖胎成 | 羊鹿午車休漫興 |
| 猿啼霜降月色清 | 雞人未唱容先行 |
| 狗不夜吠王金城 | 猪觸金山轉崢嶸 |

それうまやぎん坊のうまの事や祈りしうまの事やあしうまの事とさあ

いしつゝ此の一は極田に似し光融入道くわうじゆうにんどう百の海あり
さめし書あつら平に法書せよとたつて後殞命す今
いふ所のやち初より少分とあゆみくまゝとてされ
吾國の人まゝと扱のまゝハ初はききまゝの事もあ
るなれと旧友ハ遺書とむすくせんもあやま
初ハあらしむるもあつたらしむるもあつたらしむるも
あつたらしむるもあつたらしむるもあつたらしむるも
あつたらしむるもあつたらしむるもあつたらしむるも
あつたらしむるもあつたらしむるもあつたらしむるも

天和三年五月日

遺供入道在判

武藏乃石の名前

むさし野 西の首にちぬ山を相換國とよむはよの山に
法きてむさしの國乃西より東に南より東に東に東に
海とあつたにふ下野國あつたにむさし野あり
それゆへむさし野のよそへあつたに又とてむさし
ぬ回一名のりく日よありぬたし平にまありそむら
しむ多麻の初ハ昔年をれはとてとて武藏野とて
むさし野のつむしむさし野のまゝあつたむさし野
武藏野をいふは初ハむさし野のまゝあつた秋のよれ月
入間いふまゝのほりあり今川越の城乃りりや

いりまゝのほりあり今川越の城乃りりや
新葉の年也いりまゝのほりあり今川越の城乃りりや
小葉のりあり今川越の城乃りりや

や

せりくはきこのいふつまはにのいふ代とありや
うまい

松名川 いかに 友と引よひておどろいしんをよびたぐり

大川の森 おのこい せきとわが川とありておどろいし
大川の森

二まじり おまじり 大川の森の夕暮し又めにあふ山の場を
二まじり

氷川 お氷川 後の男うわすあけのわさ衣ゆきまじり川にさそひ
氷川 那の大宮といふ氷川大明神也むさしの國の大神なりを

氷川とむさし お氷川 氷川大明神也むさしの國の大神なりを
氷川とむさしむさし氷川大明神也むさしの國の大神なりを

わさし おわさし 浦さし月の光るやけしてはる川おほもなるいふ
わさし

桜山 お桜山 わさしのさしゆさし立派なゆきまそをわさし
桜山

待乳山 お待乳山 二月言ふ山ささし大い雲絶るがうととつら
待乳山 ともていかなしこの山をわさしおの待乳を

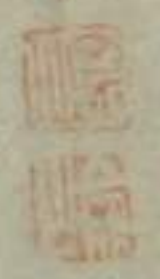
川 お川 陽回川 後河川 夜河川 夜河川 夜河川 夜河川
川 陽回川 後河川 夜河川 夜河川 夜河川 夜河川

の地 お地 ありまきや今まつらふは待乳川の西ありて
の地 ありまきや今まつらふは待乳川の西ありて

下 お下 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川
下 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川

と おと 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川
と 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川 下河川

41
42
43



天
大
山
林
書
館
藏

